

第 3 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8315
住 所 東京都中央区京橋一丁目15番1号
氏 名 味の素株式会社
取締役社長 西井 孝明 印
(代理人) 理事川崎事業所長 伊藤 善計
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 1 0 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区鈴木町1-1		
該当する事業 者の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	醤油食用アミノ酸製造・うま味調味料製造・その他調味料製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		62,170 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	総務・エリア管理部 安全・環境グループ
		所在地	川崎市川崎区鈴木町1-1
	電話番号		0 4 4 - 2 3 3 - 0 3 2 2
	F A X 番号		0 4 4 - 2 4 5 - 1 5 3 8
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度～平成27年度（報告年度 26年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	弊社の地球温暖化対策の取組みについてはホームページにて公表しています。 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/environment/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 91,769 t-CO ₂ (調) 91,768	(実) 88,490 t-CO ₂ (調) 88,490	(実) 87,718 t-CO ₂ (調) 0	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 89,016 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) 3.6 % (調) 3.6	(実) 4.4 % (調) 100.0	(実) % (調)	(実) 3.0 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	生産数量		単位	tCO ₂ /千ト	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	880.7	879.6	852.5		854.3
削減率		0.1 %	3.2 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	・スマートエネルギー施策として7月～9月の間夏季節電プロジェクト活動を実施し対前年度比合計で44万KWHの電力削減を達成した。 ・川崎工場では第2期省エネプロジェクトを発足させ地道な改善活動を実施した。 以上の活動の結果等から温室効果ガスの排出量を3.6%削減できた。
第2年度	・スマートエネルギー施策として8月～9月の間夏季節電プロジェクト活動を実施し対前年度比合計で157万KWHの電力削減を達成した。 ・川崎工場では第2期省エネプロジェクトを継続し地道な改善活動を実施した。 以上の活動の結果等から温室効果ガスの排出量を4.4%削減できた。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

＜味の素グループで設定した2014/2016年度ゼロエミ計画＞					
1) 生産系事業場	排出量はほぼ計画通り進捗している				
グループ全体					
CO ₂ 排出量原単位	2005年度比	35%削減	→	28%削減	
国内生産系事業所					
CO ₂ 総排出量	2005年度比	11%削減	→	31%削減	

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該当者等)	計 画	○生産設備のエネルギー管理 エネルギー使用状況の管理、分析結果に基づき生産工程の改善を行う。 ポンプ、ファン、コンプレッサー等の負荷に応じた調整を行う。 ○事務所等の空気調和の管理 指定フロン使用した空調設備更新時に合わせた省エネ型空調設備への更新を推進する。 ○照明設備の運用管理 照明器具等の更新の際には省エネ型を採用する。
	第 1 年度	○生産設備のエネルギー管理 エネルギー使用状況の管理、分析結果に基づき生産工程の改善を行った。 ○事務所等の空気調和の管理 冷暖房温度（冷房は 28℃、暖房は 20℃）を目標に居室の冷暖房温度を徹底した。 ○照明設備の運用管理 蛍光灯交換時期に合わせた節電型蛍光灯への交換実施。
	第 2 年度	○生産設備のエネルギー管理 2 台同時に稼働しているポンプを 1 台運転に変更した。 自動洗浄時間の短縮と乾燥時間の短縮を行った。 ○事務所等の空気調和の管理 冷暖房温度（冷房は 28℃、暖房は 20℃）を目標に居室の冷暖房温度を徹底した。 指定フロンを使用した空調機 11 台を代替フロンを使用した省エネ型の空調機に更新した。 ○照明設備の運用管理 蛍光灯交換時期に合わせた節電型蛍光灯への交換実施。 事務所で昼休みに照明を消灯した。
	第 3 年度	
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

事業所から発生する植物性残渣の品質を改善しバイオマス発電原料として供給
平成26年度は2, 585 t を供給

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

[illegible]

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

[illegible]

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	・グループ企業や他社との共同配送およびモーダルシフトの推進による荷主の義務としてCO₂排出量を年1%削減に取り組む。 ・環境貢献、配慮型の製品、技術開発の推進による川崎メカニズム認証取得を目指す。
第1年度	グループ全体でモーダルシフトに取り組み、2012年は輸配送に伴うCO ₂ 排出量原単位で3.5%削減(2010年度比)した。2013年は現在集計中。
第2年度	グループ全体でモーダルシフトに取り組み、2013年は輸配送に伴うCO ₂ 排出量原単位で4.4%削減(2010年度比)した。2014年は7.8%削減(2010年度比)
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. グリーン購入の推進を行う。 森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る 3. 廃棄物の有効利用を促進する 4. 他の者に対する環境負荷低減の取り組み要請 運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施を要請する 5. 植物性残渣の活用 製造工程で発生する植物性残渣をバイオマス発電燃料として供給を継続する 6. 包装容器3R推進 2010年度を基準年度として2015年までに プラスチック原単位2%削減、紙原単位5%削減目標とする
第1年度	1. 森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達を行った。 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を行った。 3. 廃棄物の有効利用を促進し、川崎工場では資源化率100%を達成した。 4. 運送委託業者に継続して低燃費車使用やエコドライブの実施を要請した。 5. 製造工程で発生する植物性残渣をバイオマス発電燃料として2013年実績で2,113tを供給 6. 包装容器3R推進 2010年度を基準年度として2015年までに プラスチック原単位2%削減目標 ⇒ 2.9%減 紙原単位5%削減目標 ⇒ 1.8%増
第2年度	1. 森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達を行った。 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を行った。 3. 廃棄物の有効利用を促進し、川崎工場では資源化率100%を達成した。 4. 運送委託業者に継続して低燃費車使用やエコドライブの実施を要請した。 5. 製造工程で発生する植物性残渣をバイオマス発電燃料として2014年実績で2,585tを供給 6. 包装容器3R推進 2010年度を基準年度として2015年までに プラスチック原単位2%削減目標 ⇒ 2.2%減 紙原単位5%削減目標 ⇒ 5%増
第3年度	

様式第 2 号

(第6面)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	88,039	t-CO ₂
(調)	0	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
味の素株式会社川崎事業所	川崎市川崎区鈴木町 1-1	0949	その他調味料製造	87,339 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	1

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--